

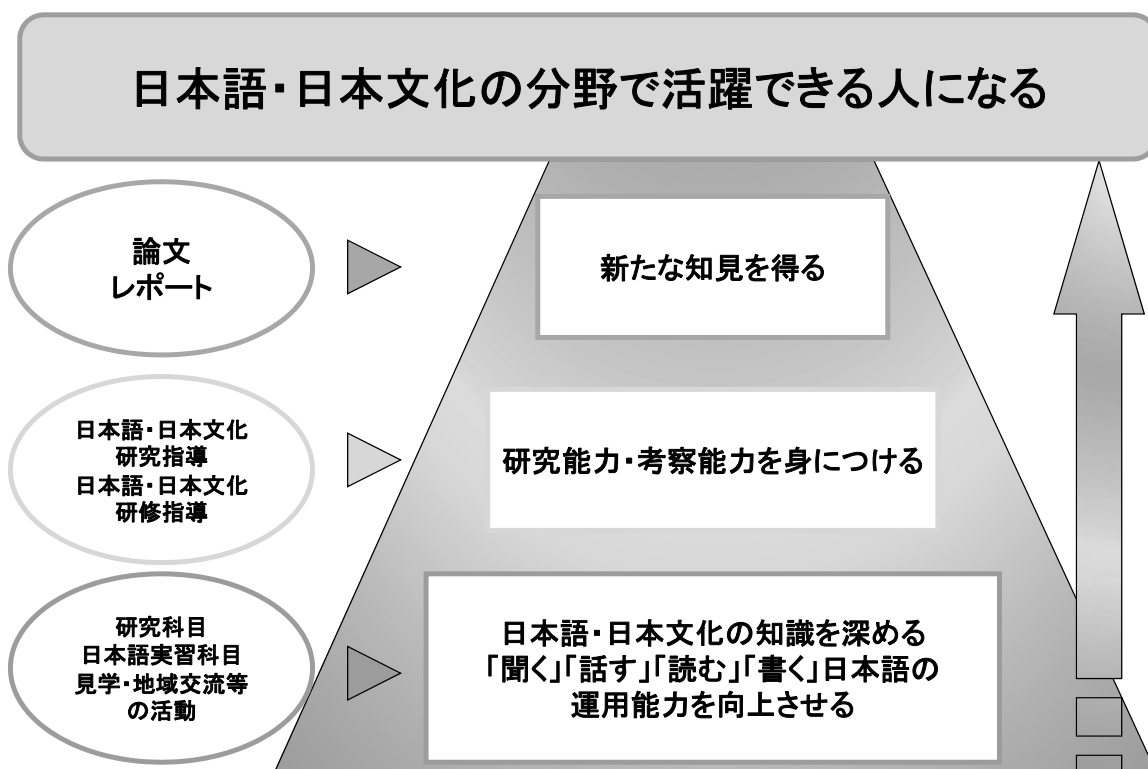
日本語・日本文化研修留学生プログラム

[J プログラム]

J

1. プログラムの概要

日本語・日本文化研修留学生（日研生）プログラムは、日本語・日本文化に関する分野を専攻する学部レベルの国費外国人留学生を対象とした1年間のプログラムです。このプログラムは、通常（じょうじょう）の授業（じゅぎょう）に加えて、1対1の個別指導（こべつしどう）または少人数のグループ指導（しょうにんずう）（日本語・日本文化研究指導（けんきゅうしどう）、日本語・日本文化研修指導（けんきゅうしどう））により、学生が日本語・日本文化を対象とした研究・研修活動（けんしゅうかつどう）を行うことを通して、高度な日本語能力（こうど にほんごのうりよく）、専門知識（せんもんちしき）、優れた研究能力・考察能力（すぐ けんきゅうのうりよく こうさつのうりよく）を身につけ、日本語・日本文化の分野で知識を活かしながら活躍（かつやく）できる人材（じんざい）となることを目標（もくひょう）としています。



コース区分

日本語・日本文化研修留学生プログラムには、2つのコースがあります。コースの選択は、秋～冬学期の初め（10月）に行います。コースを変更したい場合は、春～夏学期から変更することができます。コース変更は、それ以外には原則的に認められません。

研究コース

日本語・日本文化について研究することを希望する学生向けのコースです。研究コースでは、それぞれの研究分野に関する知識や方法を学ぶ中で、日本語・日本文化を研究するために必要な能力を身につけることができます。また、専門的な日本語を使って、文章を書いたり、口頭発表や質疑応答ができるようになることも目標です。コース修了時に、自分の研究成果について、論文を作成し、口頭試問を受けます。

研修コース

日本語の運用能力と日本文化の知識を通じて、社会で幅広く活躍することを希望する学生向けのコースです。研修コースでは、自らの活動報告やグループ・ディスカッションを行うとともに、学内外研修に参加する中で、日本語・日本文化について考察するために必要な能力を身につけることができます。また、日本語を使って、自分の意見を書いたり、高度な内容を聞き取ったり、話したりできるようになることも目標です。コース修了時に、自分の調査や活動の成果について、レポートにまとめます。

2. プログラムの修了要件^{しゅうりょうようけん}

- ① 選択したコースごとに定められた数の必修科目と選択科目を修得すること。
- ② 中間発表会と最終発表会に参加し、発表を行うこと。
- ③ コース修了時に、研究コースは論文を日本語で作成して提出し、口頭試問に合格すること。
 研修コースはレポートを日本語で作成して提出すること。

各コースの履修科目数^{かく}

研究コース^{けんきゅう}

種別		授業科目数 (コマ数)			
		秋～冬学期	春～夏学期	小計	合計
必修	日本語・日本文化研究指導 (JDR)	1	1	2	20 以上
選択	日本語実習科目 (L)	6 以上		18 以上	
	研究科目 (R)	6 以上			
修了論文 (口頭試問を含む)					

研修コース^{けんしゅう}

種別		授業科目数 (コマ数)			
		秋～冬学期	春～夏学期	小計	合計
必修	日本語・日本文化研修指導 (JDR)	1	1	2	23 以上
選択	日本語実習科目 (L)	8 以上		21 以上	
	研究科目 (R)	2 以上			
修了レポート					

3. 開講科目の概要

3-1. 必修科目

研究コースの学生は【日本語・日本文化研究指導 (JDR)】、研修コースの学生は【日本語・日本文化研修指導 (JDR)】の授業を必ず履修しなければなりません。

【日本語・日本文化研究指導／日本語・日本文化研修指導】(JDR) S 410.xx

1対1の個別指導または少人数グループでの指導により、個々の学生の興味、関心、目的に合った、きめ細かな指導を行います。研究コースは、日本語・日本文化についての研究を論文にまとめられるよう指導を行います。研修コースは、学内外の調査や体験を通じて、レポートをまとめられるよう指導を行います。研究コース・研修コースともに、定められた発表会に参加して、自分の研究・研修の成果の発表を行います。

3-2. 選択科目

選択科目には、①【日本語実習科目】と②【研究科目】があります。

開講される授業については、各学期の『授業案内』を見てください。

①【日本語実習科目】(L)

参加学生の日本語技能の習熟度に合わせて幅広く選択履修できるようにデザインされており、中級科目、中上級科目、上級科目の3レベルの科目を提供しています。各自の技能別能力に応じて、読解 (RDG)、聴解 (LIS)、文章表現 (WRT)、口頭表現 (SPK)、文法・語彙 (GV)、漢字・語彙 (KV) の科目から自由に選ぶことができます。

日本語中級読解 (RDG) L 310.xx

[受講生のレベル：B1]

よく使われる言語や、自分の専門や興味のある分野について書かれた文章を理解することができる。また馴染みのある話題について書かれたものであれば、簡単な新聞記事の大意を理解することができる。起こったこと、感情や希望が表現された私信を理解することができる。

日本語中級聴解 (LIS) L 320.xx

[受講生のレベル：B1]

日常的な話題について、標準的な話し方であれば大意を把握し、重要なポイントを聞きとることができる。聞いた内容について他者と意見交換をすることができる。天気予報や駅のアナウンスといった、決まった内容の発話であれば、ある程度長い内容でも聞き取ることができる。

日本語中級文章表現 (WRT) L 330.xx

[受講生のレベル：B1]

短い手紙やメールを書いたり、自身の日常生活に関する短い文章を書くことができる。身近な話題 (家族や自分の国など) や関心の強い事柄に関して簡単な文章を書くことができる。基本的な語句や表現を使って、つながりのある文章を書くことができる。

日本語中級口頭表現 (SPK) L 340.xx

[受講生のレベル：B1]

独話では、句をつなぎ合わせ、過去の経験や出来事、将来の夢などについて、時制を意識した発話ができる。1対1の対話であれば、相手の発話を理解でき、ある程度フォーマルな発話もできる。協力的な会話参加者とであれば、おおむね自然なやりとりが可能である。また、日本語の音声的な特徴を踏まえた誤解の生じない発音ができる。

にほんごちゅうきゅうぶんぼう かい
日本語中級文法・語彙 (GV) L 350.xx

じゅこうせい
[受講生のレベル：B1]

4技能を高めるのに不可欠な基礎語彙が身についている。文を構成する要素(品詞、形態素、表現類型)および、頻出度の高い語彙については、相当数が十分に理解できる。

にほんごちゅうきゅうかんじ かい
日本語中級漢字・語彙 (KV) L 360.xx

じゅこうせい
[受講生のレベル：B1]

「読む」と「書く」の技能を高めるのに不可欠な基礎語彙が身についている。特に、漢字のもつ特徴(形・音・義)について十分に理解し、漢字で書くべき基本的な語彙の相当数が十分に読み書きできる。

にほんごちゅうじょうきゅうどっかい
日本語中上級読解 (RDG) L 410.xx

じゅこうせい
[受講生のレベル：B2]

標準的な言語で書かれた、個人的あるいは専門的な(つまり、学習者にとって比較的馴染みの薄い分野の)文章について、議論の流れを理解することができ、文章の興味深い点を同定することができる。また個人的に興味のあるテーマであればより長い文章も読むことができる。現代文学の散文(小説など)が読める。

にほんごちゅうじょうきゅうちゅうがい
日本語中上級聴解 (LIS) L 420.xx

じゅこうせい
[受講生のレベル：B2]

やや専門的な話題・日常的な話題について、標準的な話し方であれば理解することができる。初めて聞く言葉が含まれていても、文脈から意味を推測して理解することができる。また、そのようにして聞いた内容を他者に説明することができる。さらに、聞いた内容について他者と意見交換や議論をすることができる。

にほんごちゅうじょうきゅうぶんしょうひょうげん
日本語中上級文章表現 (WRT) L 430.xx

じゅこうせい
[受講生のレベル：B2]

自身の経験や身の回りの出来事、学習した内容などについて説明や報告を書くことができる。事実を述べた文章や日常的な話題の文章の要点をまとめることができる。接続詞や指示詞を意識的に使って段落分けを行い、結束性のある文章表現ができる。

にほんごちゅうじょうきゅうこうとうひょうげん
日本語中上級口頭表現 (SPK) L 440.xx

じゅこうせい
[受講生のレベル：B2]

母語話者とある程度流ちょうに自然なやりとりができる。日常的な話題や自分の関心に関連した幅広い主題について、明確かつ詳細に話せ、自分に関心のあるテーマであれば、積極的に会話に参加し、自分の見解を明瞭に表現できる。独話では、異なる見解の長所・短所などを簡潔な表現で述べ、自分の視点を説明できる。

にほんごちゅうじょうぶんぽう こい
日本語中上級文法・語彙 (GV) L 450.xx

じゅこうせい
[受講生のレベル：B2]

ぎのう たか ひつよう きほんてき げんごちしき み とく ぶん こうせい
4技能を高めるのに必要な、より基本的な言語知識が身につけている。特に、文を構成する
ようそ ひんし けいたいそ ひょうげんりけい かん しゅべつ とうがいぶんや そうとうすう こい しよう
要素（品詞、形態素、表現類型）に関する種別がわかり、当該分野の相当数の語彙が使用できる。

にほんごちゅうじょうかんじ こい
日本語中上級漢字・語彙 (KV) L 460.xx

じゅこうせい
[受講生のレベル：B2]

よ か ぎのう たか ひつよう きほんてき げんごちしき み とく
「読む」と「書く」の技能を高めるのに必要な、より基本的な言語知識が身につけている。特に、
かんご こうせい ようそ かんご ここうせい たいり ちがい にちじょうせいかつ ひつよう かんじ かんご そうとう
漢語を構成する要素、漢語の語構成に対する理解があり、日常生活に必要な漢字、漢語の相当
すう よ か
数が読み書きできる。

にほんごじょうきゅうどっかい
日本語上級読解 (RDG) L 510.xx

じゅこうせい
[受講生のレベル：C1]

たよう かん さまざま しゅるい つうじょう か ことば ぶんしょう りかい そちよく
多様なテーマに関する、様々な種類の通常書き言葉の文章を理解することができる。率直
いけん の かしよ ぶんたい ちが とく きょうちよう てん み
な意見として述べられている箇所、文体の違い、特に強調されている点などを見つけることが
できる。ふくざつ ぶんしょう びみょう いみ ちが りかい
複雑な文章において、微妙な意味のニュアンスの違いまでも理解することができる。
はばひろ ぶんや わだい めいじ あんじ
幅広い分野の話題について、明示されているものだけでなく、暗示されているにとどまるもの
についても、意見を理解することができる。

にほんごじょうきゅうちようかい
日本語上級聴解 (LIS) L 520.xx

じゅこうせい
[受講生のレベル：C1]

せんもんてき わだい じじてき わだい ひりょうじゆんてき はな かた たいい はあく じゅうよう
専門的な話題や時事的な話題、非標準的な話し方であっても大意を把握し、重要なポイントを
聞きとることができる。めいじじょう さんかしゃ かいわ ぎろん はなし なが はあく はつわしゃ
3名以上の参加者からなる会話・議論でも話の流れを把握し、発話者の
たちば けんかい はあく さまざま はな ことば きき わ てきせつ
立場や見解を把握することができる。様々なスタイルの話言葉のニュアンスを聞き分け、適切
な解釈ができる。き ないよう たしゆ しやうさい せつめい たしや ぎろん
聞いた内容について他者に詳細な説明をしたり、他者と議論をしたりすること
ができる。

にほんごじょうきゅうぶんしょうひやうげん
日本語上級文章表現 (WRT) L 530.xx

じゅこうせい
[受講生のレベル：C1]

じじつ もと じょうほう めいかく ほうこく みづか いけん じじつ くべつ かたち てきせつ
事実に基づく情報を明確に報告するだけでなく、自らの意見を事実と区別された形で適切に
ひやうげん せんもんてき しゅだい かん てきせつ ぶんたい つか いかんせい ぶんしょう か
表現することができる。専門的な主題に関して、適切な文体を使った一貫性のある文章を書く
ことができる。しゅしゅ しゅだい かん ぶんたい とくちやう よ て じょうほう ふ ひやうげん
種々の主題に関して、それぞれの文体の特徴や読み手の情報を踏まえた表現を
つか ぶんしょう か
使って文章を書くことができる。

にほんごじょうきゅうこうとうひょうげん
日本語上級口頭表現 (SPK) L 540.xx

じゅこうせい
[受講生のレベル：C1]

ほとんど言葉に迷うことなく、流ちょうかつ自然に自己表現ができる。独話では、やや専門的な話題・日常的な話題においても、関連したテーマを統合したり意見を展開させ、論を完結させることができる。また、対話では他の会話参加者を意識し会話を作り上げることができ、場面に即した発話ができる。必要に応じて、議論を維持させたり展開させたりできる。

にほんごじょうきゅうぶんぽう ごい
日本語上級文法・語彙 (GV) L 550.xx

じゅこうせい
[受講生のレベル：C1]

4技能を高めるのに必要な、より多彩な言語知識が身についている。特に、表現性の違いに着目して文型や語彙を選択することができるとともに、多くの類義表現を習得することで、相当数の理解語彙が身についている。

にほんごじょうきゅうかんじ ごい
日本語上級漢字・語彙 (KV) L 560.xx

じゅこうせい
[受講生のレベル：C1]

「読む」と「書く」の技能を高めるのに必要な、より多彩な言語知識が身についている。特に、漢語と和語の表現性の違いや漢語で構成されている品詞にも着目して適切に用いることができ、多くの類義表現を習得することで、相当数の語彙が理解できる。

② 【研究科目】(R)

日本を研究対象とした諸研究を行うのに必要な知識や方法論を身につけるための科目です。言語、言語教育をはじめ、思想、歴史、文学、社会などのさまざまな文化を比較対照的な視座から分析することで、知識や理論を学びます。より理解を深めるために、授業で得られた知見について討論を行うこともあります。

研究科目には、「日本語学研究」「日本語教育学研究」「日本思想文化学研究」「日本歴史文化学研究」「日本文献文化学研究」「日本近現代文化学研究」「日本社会文化学研究」があります。

また、それぞれの研究科目には、研究領域における基礎知識の導入を日本語運用能力に配慮しながら行う「〇〇研究基礎」という研究科目もあります。

日本語学研究 (LIN) R 410.xx / R 510.xx

言語学的観点から日本語のさまざまな特徴について考え、理解を深める領域です。主に現代の日本語を対象とする音声学・音韻論、形態論・統語論、語用論・意味論のほか、類型論、対照言語学、社会言語学、日本語史なども扱います。

日本語教育学研究 (EDU) R 420.xx / R 520.xx

日本語教育に必要な知識や観点を学ぶ分野です。日本語教育についての基本的な知識や、第二言語習得、教授法などを扱います。この分野では、教育方法に対する理解を深めるため、日本語学・言語学など、関連する分野の日本語教育への応用も学びます。

日本思想文化学研究 (THO) R 430.xx / R 530.xx

宗教学、民俗学、文化人類学などの観点から、日本人の考え方について学ぶ分野です。歴史的な観点から日本文化や社会に関する考察も行います。この分野は年中行事など日本の伝統文化も対象としています。

日本歴史文化学研究 (HIS) R 440.xx / R 540.xx

古代から現代に至るまでの日本の歴史を学ぶ分野です。歴史を学ぶことを通して、日本社会や日本文化に関する考察も行います。この分野では文化史も扱います。そのほか、書道・茶道も対象としています。

日本文献文化学研究 (LIT) R 450.xx / R 550.xx

奈良時代から江戸時代の間に書かれた日本の古典文学、明治時代から現代までに書かれた日本の近現代文学を学ぶ分野です。この分野では文学史や批評理論なども扱います。日本の伝統芸能も対象としています。

にほんきんげんだいぶんかがくけんきゅう
日本近現代文化学研究 (CON) R 460.xx / R 560.xx

きんげんだい にほんぶんか けんきゅうほうほう まな ぶんや にほんぶんか とくちょう れきしてきへんせん げんだい
近現代の日本文化とその研究方法を学ぶ分野です。日本文化の特徴やその歴史的変遷、現代
にほんしゃかい かか もんだい まな しゃかいがく ひかくぶんか けんきゅうほうほう しゅうとく
の日本社会が抱える問題について学びます。また、社会学や比較文化などの研究方法を習得す
ることで、文化研究について理解を深めます。

にほんしゃかいぶんかがくけんきゅう
日本社会文化学研究 (SOC) R 470.xx / R 570.xx

せいじ けいざい けいえい かんてん にほん しゃかいてきそくめん まな ぶんや ぶんや こくさいかんけい
政治、経済、経営などの観点から、日本の社会的側面を学ぶ分野です。この分野は国際関係
たいしゅう れきしてきかんてん ぶんせき じ じてき もんだい こうさつ とお にほんしゃかい
なども対象としています。歴史的観点からの分析、時事的な問題の考察を通して、日本社会へ
りかい ふか
の理解を深めます。

※プレースメントテストの結果、必要と認められる学生は、アドバイザーの指導に基づいて指定
された日本語実習科目 (JGV や MGV α/β など) を履修する必要があります。

※プレースメントテストの結果、C2 レベルと判定された学生は、プログラム修了要件に示され
た履修科目数にかかわらず、研究コース学生は通年で18科目以上の研究科目、研修コース
がくせい つうねん かもくいじょう けんきゅうかもく りしゅう
学生は通年で21科目以上の研究科目を履修しなければなりません。

※春～夏学期に他学部で開講される日本語・日本文化に関する科目のうち、CJLC が指定した
科目を登録・履修した場合は、プログラム修了要件に示された研究科目の一つとして数えるこ
とができます。他学部で開講されている科目は、最大2科目まで登録・履修できます。

4. 見学・地域交流等の活動

日本文化についての理解を深め、日本語能力を高めるために、以下のような学内外のさまざまな活動を計画しています。

- (1) 日本の芸術や文学に対する理解を深めることを目的として、歌舞伎、文楽などの鑑賞会を計画しています。
- (2) 日本の歴史、民俗、経済、経営に対する理解を深めることを目的として、各地の名所を見学する研修旅行を計画しています。
- (3) 日本の生活文化を体験するために、国際教育交流センター（B棟1階）が主催・紹介するホスト・ファミリープログラムやその他の行事に参加することができます。

※このほか、いろいろな活動があります。くわしいことはCJLC事務室前の掲示板に掲示しますので、よく見るようにしてください。